



## メラニンって、どんなものなの

### 皮ふや毛根でつくられる小さな色素（色のつぶ）

メラニンというのは、皮ふやかみの毛などにある、黒い色素（色のつぶ）のことです。皮ふや毛根の部分には、メラニン色素細胞があり、メラニンは、その細胞でつくられています。そして、メラニンは、体の中に、紫外線とよばれる、体に悪い光が入らないように、紫外線を吸収しています。

### メラニンはものすごく小さな色素

かみの毛のメラニンは、皮ふの下にある毛根の毛乳頭でつくられ、大きさは、1万分の1～4ミリメートルと、ものすごく小さな色素（色のつぶ）です。

かみの毛の色を決めているのは、かみの毛の中のメラニン色素と空気の量です。日本人のような黒いかみの毛には、このメラニン色素がたくさん入っており、メラニン色素が少なくなるにつれて、黒からかっ色、そして、アメリカやヨーロッパの人のような、くり毛、金ぱつになっていきます。

また、外国人、特に西洋人の目が青いのは、眼球（目玉）にある虹彩に、メラニンが少ないためです。

黒目には、虹彩という膜がありますが、目が青いとか黒いとかいっているのは、おもにこの虹彩の色のことをいっているのです。この虹彩には、メラニンがありますが、虹彩にこのメラニンが多いと黒くなり、少ないと茶色や青い色に見えるのです。

また、メラニンは虹彩のまわりの膜や、眼球のおくにある網膜というところにもふくまれています。西洋人には、虹彩やそのまわりの膜にあるメラニン色素が少ないので、網膜の色素がすけて見えるために、虹彩の色が、茶色や青い色などに見えるのです。

（監修・保志 宏）

